



2023年8月23日

各位

会社名株式会社 J M C
代表取締役社長 渡邊大知
兼 CEO
(コード番号: 5704 東証グロース)

問合せ先 取締役兼 CFO 篠崎史郎
(TEL. 045-477-5751)

(開示事項の経過) 新工場棟稼働開始のお知らせ

～自硬性砂型鑄造による量産に特化した新工場棟～

当社は、2022年4月14日付の「新工場棟の建設および熱処理設備増設に関するお知らせ」において公表しましたとおり、コンセプトセンター（長野県飯田市、鑄造工場）第8期棟の建設工事および生産設備の導入を決定し、2023年9月1日より操業を開始することになりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 新工場棟建設および設備導入の目的

当社の主力事業であります鑄造事業では、試作品において顧客からの短納期や品質向上の要求に応えるために、完全素加一貫（素材（鑄造品）の作製から後加工まで一貫するという意味で、型作製から検査まですべて自社内で完結させること）の生産体制を構築しております。

当社は2021年よりTPS（トヨタ生産方式）を導入し、既存工場の生産効率改善に努めてまいりました。コンセプトセンター第8期棟においては、これまでTPSに取り組んできたノウハウを結集し、当社がターゲットとする多品種小ロットの量産案件に対応する「ジャスト・イン・タイム」の生産と、匠の技能を量産ラインに落とし込む自動化設備の導入、標準作業の確立によって、従来極めて少量の生産にしか対応できないと思われていた自硬性砂型鑄造で、月間最大2万台の生産と、大幅な製造コストの削減が可能になる見込みです。

昨今、FA（ファクトリ・オートメーション）機器向けの鑄造品においては、アルミニウム合金と比較して約3割の軽量化を実現するマグネシウム合金への関心が高まっています。当社は、鑄造の難度が高く、競合の少ないマグネシウム合金の鑄造においても業界屈指の生産実績を有しており、コンセプトセンター第8期棟においては、他に類をみない自硬性砂型鑄造によるアルミニウム・マグネシウム製品の量産対応を可能とします。

コンセプトセンター第8期棟の稼働開始によって、既設の熱処理棟と合わせて、鑄造工程と熱処理工程の本格的な量産が可能になります。今後は、自硬性砂型鑄造による高品質な量産という新しい付加価値によって、多品種・適時生産・適時量産という製造業のトレンドに対応してまいります。

(注) 自硬性鑄造：砂に樹脂と硬化剤を混ぜることで強度のある砂型をつくるエ法で、量産性が低いことから、通常は量産前の試作用途で使用される。



2. 新工場棟の概要

- (1) 名称 コンセプトセンター 第8期棟
- (2) 所在地 長野県飯田市伊豆木 (2019年に取得を完了済の伊豆木産業用地内)
- (3) 延べ床面積 2,287 m²
- (4) 投資額 約11億円
 建物・機械及び装置・工具、器具及び備品及び土木造成工事、外構等
- (5) 操業開始 2023年9月1日
- (6) 用途 鋳造工程、仕上工程、検査工程

3. 今後の見通し

本件は2023年2月14日に公表した2023年12月期の業績予想に織り込み済みです。今後、開示すべき事項が生じた場合には、速やかにお知らせいたします。

以上